

## 核兵器禁止条約の発効に伴う声明

この度、2017年7月7日に国連で採択された核兵器禁止条約が、必要となる50か国・地域の批准を得て本日1月22日に発効した。

戦後、核兵器による破滅から人類を救うための決め手として、AINシュタインや湯川秀樹など科学者らが中心となり提唱された「世界連邦」の建設を目指す。国内の自治体で組織する当協議会は、その前身である世界連邦平和都市連絡協議会の創設から65年にわたり、核兵器の廃絶を強く訴え、地道ながらも世界の恒久平和の実現に向けた活動を進めてきたところである。

核兵器禁止条約は、核兵器の開発や実験、生産、保有、使用などを全面的に禁止し、核兵器を非人道的で違法とする初めての国際条約である。人類が核兵器の脅威を知り未曾有の犠牲を払うこととなった第二次世界大戦の終結から75年余りを経る中で、当協議会としても、一般の条約発効を歴史的な一步と捉えており、今後、核兵器廃絶に向けた動きが大きく前進することを期待している。

国会では、2005年には衆議院で、2016年には参議院で、それぞれ世界連邦に関する決議がなされ、また、政府は、1994年以降毎年、国連において核兵器廃絶に向けた決議案を提出し圧倒的多数の賛成を得ているところである。

そうした中で、政府は、核兵器保有国と非保有国との「橋渡し」役を果たす旨を示されているが、唯一の戦争被爆国である日本国として、核兵器禁止条約の採択・発効に繋がった世界的な機運を無駄にせぬよう、真なる「核兵器のない世界」の実現に向け、より積極的かつ先導的な関与を果たすよう希望するところである。

令和3年(2021)年1月22日

世界連邦宣言自治体全国協議会  
会長 緑部市長 山崎善也

平成29年7月に国連加盟国の6割にあたる122か国・地域の賛成のもと成立した核兵器禁止条約が、要件となる50か国・地域の批准を得て1月22日に発効しました。

## 核兵器の使用・

この条約は、核兵器の開発や実験、生産・製造、取扱いを全面的に禁止する初めての国際条約であり、前文で核兵器使用による被爆者の受け入れがたい苦しみに言及するなど画期的な内容となっています。

世界の核弾頭数は昨年6月時点ですべて1万3千発以上と推計

# 核兵器禁止条約が発効

## —1月22日—

# いま、一つの世界を

自治体協新聞

発行  
世界連邦宣言自治体全国協議会  
(事務局=京都府綾部市)  
〒623-8501綾部市若竹町8-1  
TEL (0773) 42-4217  
FAX (0773) 42-4905

## ご協力ありがとうございました

### 自治体職員1人100円募金



当協議会の中核事業の1つとして昭和61年から毎年実施している「世界平和と難民救済のための自治体職員1人100円募金」について、全国の

お預かりした募金は、国連UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とUNICEF（国連児童

善意をお寄せいただきました。ご協力いただいた自治体の皆様には厚く感謝申上ります。

お預かりした募金は、引き続き、本事業への事業展開に役立てます。ご理解ご協力を願いします。

基金）へ寄託し、紛争や迫害で祖国を追われた人々

や、飢えと病気・貧困に苦しむ子どもたちの救済に役立てられるほか、世界連邦・平和推進のための基金に積み立て、中東和平プロジェクトなどの

（長崎大学核兵器廃絶研究センター・RECNA公表データ）  
される中、米英仏ロ中などの核保有国や日本をはじめ「核の傘」に依存する諸国は条約に参加しておらず、条約の実効性にはまだ課題もある状況です。

核兵器廃絶を目指す当協議会としても、この条約発効は歴史的な大きな一步であると考えており、昨年10月の発効確定時に続き、唯一の戦争被爆国である日本国として、眞なる「核兵器のない世界」の実現に向けて積極的かつ先導的な役割を果たすよう、声明を発表（上記）するとともに、日本政府に対し要請文を提出しました。



リモート講演の様子

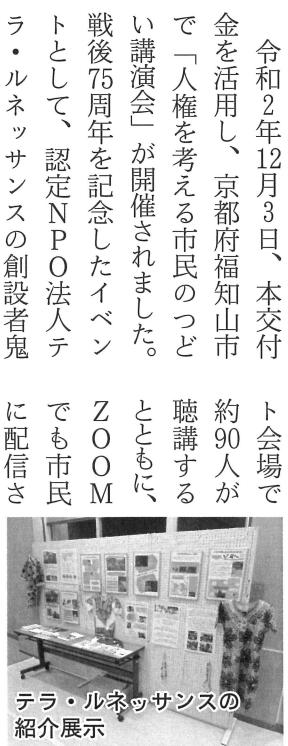
トとして、認定NPO法人テラ・ルネッサンスの創設者鬼丸昌也（おにまる・まさや）さんを講師に「今、平和への

思いをひろげよう」と題したと題した

思ふことを述べました。また、メイン会場では、NPO法人の活動や人権に関するパネルの展示なども行われました。

なお、当初3月に予定されていた東京都瑞穂町の「町制80周年記念世界連邦事業・渋谷教志写真展」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

## 令和2年度 世界連邦推進事業交付金



令和2年12月3日、本交付金を活用し、京都府福知山市で「人権を考える市民のつどい講演会」が開催されました。戦後75周年を記念したイベントとして、認定NPO法人テラ・ルネッサンスの創設者鬼丸昌也（おにまる・まさや）さんを講師に「今、平和への

思いをひろげよう」と題したと題した

思ふことを述べました。また、メイン会場では、NPO法人の活動や人権に関するパネルの展示なども行われました。

なお、当初3月に予定されていた東京都瑞穂町の「町制80周年記念世界連邦事業・渋谷教志写真展」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

# 記念フォーラムが開催される

—11月18日・19日—



令和2年11月18日と19日の2日間にわたり、世界連邦日本国芸術大学が共催し、国際連合創設75周年記念事業が開催されました。

18日は、参議院議員会館特別会議室において、井上信治内閣府特命担当大臣らのほか、当協議会からは山崎善也会長が挨拶に立ちました。

「平和フォーラム」では、ホスピタルド国連事務次長らがパンデミック対応の役割や気候問題・多国間の連帯の重要性について述べ、自民党の伊吹文明氏など各役員から意見表明が行われました。

19日は、「文化化の力で国連を盛り立てていく」というテーマのもと京都芸術大学において「藝術文化学術フォーラム」が開催されました。

基調講演に立った明石康元国連事務総長特別代表は、日本が国連に加盟するに当たり、重光葵外相（当時）の国連加盟演説を直接聞いた体験などを踏まえ国連の歴史を述べられました。

最後に、国連創設100年に向け、全人類の連帯による平和構築及びSDGs達成を推進するために協働することを誓い「藝術文化学術・京都宣言」の署名・調印がなされました。

明石康元国連事務総長特別代表は、「國際社会における藝術文化の活用による全人類の連帯構築の可能性について」をテーマに参加者から意見表明がなされました。

パネルディスカッションでは、「國際社会における藝術文化の活用による全人類の連帯構築の可能性について」をテーマに参加者から意見表明がなされました。

パネルディスカッションでは、「國際社会における藝術文化の活用による全人類の連帯構築の可能性について」をテーマに参加者から意見表明がなされました。

# 全国から一千点以上の作品

## 世界連邦推進スター・作文コンクール

世界連邦運動協会（海部俊樹会長）主催、当協議会と文部科学省後援の「第49回世界連邦推進全国小・中学生作文コンクール」に、

今年は全国からポスター62

タ・作文コンクール」に、今年は全国からポスター62

点、作文498点の応募があり、それぞれ17点の作品が選出されました。

例年、東京で実施していた表彰式は、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令されたことにより中止となりました。

今回の作品は、「人間だけじゃない」を一つの着眼点として作成されたポスターや、これまでにはなかつた新型コロナウイルスを主題とした作文などの特徴があつたと審査員からの講評を受けました。

### 作文の部

「知る・認める・考える」

富士宮市立富士宮第二中学校一年

渡邊春翔さん

### 一文部科学大臣賞受賞作品



「どちらの未来を選びますか」

綾部市立上林中学校2年  
佐藤悠季さん

